

医療機関向け調査の結果について

1 概要

医療ツーリズムを推進する上での現状の把握及び課題等を明らかにすることを目的に、県内の病院に対して、令和2年度を対象期間とした「外国人患者の受入れ^{*}状況に関するアンケート」を実施した。

^{*}本調査において、「外国人患者の受入れ」とは、「愛知県の医療機関で受診することを目的に訪日した外国人患者に「健診・検診」や「治療」を実施すること」と定義し、単に観光や仕事等を目的に訪日した外国人が突然の病気等で受診した場合や、日本に在住する外国人患者に対する診療は除く。

2 調査対象

県内 218 病院

3 調査期間

令和3年5月18日（木）～6月15日（月）

4 回収状況

112 病院から回答を得た。（回収率 51.4%）

5 調査結果

次ページ以降のとおり

※表中の数字は「病院数」。

また、四捨五入のため割合の合計が 100%にならない場合がある。

6 まとめ

- 県内の 16 病院が令和2年度に「外国人患者の受入れを実施」している。
- 「中国」からの受入数が最も多く、受入れをしている診療分野・診療科は「治療」が最も多い。
- 外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「多言語に対応した院内表示」、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「国際医療コーディネーターとの連携」が多くなっている。

(1) 病床数別にみた外国人患者受入れ状況

県内の16病院が外国人患者の受入れを「実施している」と回答し、病床数で見ると、7病院が「500床以上」、3病院が「150～199床」となっている。令和2年度から実施した病院は無かった。

なお、1病院が「実施予定」と回答した。

病床数区分 (床)	n	令和2年度 から実施	令和元年度 以前から 実施	実施予定	検討中	未定	実施予定 はない
20～29	2	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(100.0%)
30～49	6	0(0.0%)	2(33.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(16.6%)	3(50.0%)
50～99	25	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(4.0%)	7(28.0%)	17(68.0%)
100～149	15	0(0.0%)	1(6.6%)	0(0.0%)	1(6.6%)	3(20.0%)	10(66.6%)
150～199	15	0(0.0%)	3(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(13.3%)	10(66.6%)
200～299	14	0(0.0%)	1(7.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3(21.4%)	10(71.4%)
300～499	13	0(0.0%)	2(15.3%)	1(7.6%)	1(7.6%)	5(38.4%)	4(30.7%)
500以上	22	0(0.0%)	7(31.8%)	0(0.0%)	1(4.5%)	3(13.6%)	11(50.0%)
計	112	0(0.0%)	16(14.2%)	1(0.8%)	4(3.5%)	24(21.4%)	67(59.8%)

(2) 外国人患者受入れを実施した経緯

外国人患者の受入れを実施するようになった経緯としては、4病院が「外国人患者又は家族からの依頼」、5病院が「自院の方針として自ら開始」と回答した。

外国人患者受入れを実施する経緯	回答数 (n=14)
外国人患者又は家族からの依頼	4(28.5%)
自院の方針として自ら開始	5(35.7%)
国際医療コーディネーターからの紹介	2(14.2%)
保険会社からの紹介	0(0.0%)
旅行会社等からの紹介	0(0.0%)
理事長知人からの紹介	1(7.1%)
医療機関からの依頼	2(14.2%)

(3) 外国人患者受入れ人数【複数回答】

外国人患者の受入れ人数は、「健診・検診分野」では中国が4割以上を占め、他にはベトナム、モンゴルなど全3か国から受け入れている。「治療分野」でも中国が7割以上を占め、他にはベトナム、モンゴルなど全13か国から受け入れている。

一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）は、「健診・検診分野」では1～5日未満のみとなっている。「治療分野」では1～5日未満が半数以上を占めている。

《健診・検診分野》

・延べ受入れ人数

受入れ人数 (n=2)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～20人 未満	20～30人 未満	30～50人 未満	50人以上
	1(50.0%)	0(0.0%)	1(50.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

・居住国別受入れ人数

受入れ人数 (n=4)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～20人 未満	20～30人 未満	30～50人 未満	50人以上
中国	1(25.0%)	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ベトナム	0(0.0%)	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
インドネシア	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ネパール	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
カンボジア	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
フィリピン	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
タイ	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
モンゴル	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
Bangladesh	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

・一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）

受入れ日数 (n=2)	1～5日 未満	5～10日 未満	10～20日 未満	20～30日 未満	30～40日 未満	50～100日 未満
	2(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

《治療分野》

・ 延べ受入れ人数

受入れ人数 (n=7)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～50人 未満	50人以上
	3 (42.8%)	3 (42.8%)	0 (0.0%)	1 (14.2%)

・ 居住国別受入れ人数

受入れ人数 (n=21)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～20人 未満	20～30人 未満	30～50人 未満	50人以上
中国	5 (23.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.7%)
ベトナム	1 (4.7%)	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
インドネシア	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
アメリカ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
モンゴル	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
フィリピン	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
イギリス	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ブラジル	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
インド	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ネパール	0 (0.0%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
スペイン	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
オーストラリア	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
アフガニスタン	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
オーストリア	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	1 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

・一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）

受入れ日数 (n=7)	1～5日 未満	5～10日 未満	10～20日 未満	20～30日 未満	30～40日 未満	50～100日 未満
	5 (71.4%)	1 (14.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.2%)

(4) 外国人患者受入れの際の価格設定

外国人患者を受け入れるにあたり、**57.1%の病院が「診療報酬単価と同じ又はそれ以下」の価格に抑えている。**また、**28.5%の病院が「診療報酬単価の2倍以上 2.5倍未満」、14.2%の病院が「診療報酬単価の3倍以上」の価格としている。**

n	診療報酬単価					
	同じ又は それ以下	1.1倍以上 1.5倍未満	1.5倍以上 2倍未満	2倍以上 2.5倍未満	2.5倍以上 3倍未満	3倍以上
14	8 (57.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (28.5%)	0 (0.0%)	2 (14.2%)

(5) 外国人患者を受入れる際の院内手続きの実施について【複数回答】

外国人患者受入れて医療行為を行うにあたり、手続きとして通常時と比べて追加で実施していることとして、「**個人毎に契約書を締結している**」、「**誓約書を記載してもらっている**」との回答があったが、「**特別な手続きは実施していない**」と回答した病院が最も多かった。

外国人患者を受入れる際の院内手続きの実施について	実施していること (n=18)
個人毎に契約を締結している	3 (16.6%)
誓約書を記載してもらっている	3 (16.6%)
特別な手続きを実施していない	9 (50.0%)
その他	3 (16.6%)

また、その他の内容として、「指定した医療ツーリズム事業者と契約」、「国際医療コーディネーターを利用」、「クレジットカードの確認」があった。

(6) 外国人患者の受入れをしている（する予定の）診療分野・診療科【複数回答】

外国人患者の受入れをしている診療分野・診療科としては、「健診・検診」が最も多いが、「概ね全診療・治療分野で受入」と回答した病院も同程度であった。

診療分野	健診・検診	消化器内科	腎臓内科	脳神経外科	膵臓がん
回答数	15 (36.5%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)
n=41	循環器内科	整形外科	精神科	口腔外科	陽子線治療科
	1 (2.4%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)
	内科	概ね全分野			
	2 (4.8%)	15 (36.5%)			

具体的な疾患・治療内容等

- ・ 口腔外科での手術及び入院
- ・ 肝がん、肺腺がん等に対する陽子線治療
- ・ 膵臓がん手術
- ・ 統合失調症

(7) 外国人患者受入れに向けた体制整備【複数回答】

外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「**契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応**」、「**多言語に対応した院内表示**」、「**医療通訳を院外から必要に応じて手配**」、「**国際医療コーディネーターとの連携**」、が多くなっている。

外国人患者受入れに向けた体制整備	実施していること/ 実施しようとして いること (n=36)
外国人患者受入窓口（国際診療科等の専門部署・スタッフ）の設置	2(5.4%)
多言語に対応した院内表示	5(13.5%)
医療通訳を院内のスタッフとして配置	4(10.8%)
医療通訳を院外から必要に応じて手配	5(13.5%)
多言語に対応した医療従事者（医師・看護師など）の配置	2(5.4%)
外国人患者受入れに対応した診療施設、入院施設の設置	2(5.4%)
契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応	6(16.2%)
情報発信・プロモーション活動	2(5.5%)
国際医療コーディネーターとの連携	5(13.5%)
国際医療コーディネーター以外の機関（国内外の医療機関、自治体、旅行会社など）との連携	2(5.4%)
その他（パンフレットの英語版、中国語版の対応）	1(2.7%)

(8) 外国人患者受入れにあたってのサービスの実施主体

外国人患者の受入れにあたって、「患者情報の入手」、「必要書類の翻訳」、「医療通訳・医療結果翻訳」、「支払手続き」は、病院自ら又は外部委託により約6割が実施している。

業務名	概要	n	提供				未提供	
			自院	外部委託		(小計)		
				有償	無償			
事前	患者情報の入手	医療情報、患者情報の入手	14	3 (21.4%)	4 (28.5%)	1 (7.1%)	8 (57.1%)	6 (42.8%)
	同意書の締結	治療内容や治療費変更の可能性など、同意書を作成し、患者と締結	14	4 (28.5%)	2 (14.2%)	1 (7.1%)	7 (50.0%)	7 (50.0%)
	ビザの手配	ビザ取得に必要な書類の入手・作成	14	1 (7.1%)	5 (35.7%)	0 (0.0%)	6 (42.8%)	8 (57.1%)
	必要書類の翻訳	入退院関係の手続書類、検査・治療の同意書などの必要書類の翻訳	14	4 (28.5%)	4 (28.5%)	0 (0.0%)	8 (57.1%)	6 (42.8%)
	来日搬送の手配	日本までの移動や空港到着後から病院までの搬送などの手配	14	2 (14.2%)	4 (28.5%)	0 (0.0%)	6 (42.8%)	8 (57.1%)
	航空券・宿泊施設の予約	航空券や国内宿泊施設の予約	14	1 (7.1%)	3 (21.4%)	0 (0.0%)	4 (28.5%)	10 (71.4%)
滞在	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	14	2 (14.2%)	4 (28.5%)	0 (0.0%)	6 (42.8%)	8 (57.1%)
	医療通訳・医療結果翻訳	医療通訳が必要な場面(事前説明、受付、診察、検査等)における医療通訳	14	4 (28.5%)	5 (35.7%)	0 (0.0%)	9 (64.2%)	5 (35.7%)
	院内での特別食の提供	入院中の患者への宗教・信条(ベジタリアンやハラール食など)に合わせた特別食の提供	14	5 (35.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (35.7%)	9 (64.2%)
	支払い手続き	費用の支払い手続き	14	5 (35.7%)	4 (28.5%)	0 (0.0%)	9 (64.2%)	5 (35.7%)
	生活面・観光での支援	日本滞在中の病院外での支援(通院同行含む)	14	2 (14.2%)	4 (28.5%)	0 (0.0%)	6 (42.8%)	8 (57.1%)
帰国	アフターケアの支援・再診の調整	帰国後のアフターケアの支援及び再診時の日程調整等の支援	14	2 (14.2%)	4 (28.5%)	0 (0.0%)	6 (42.8%)	8 (57.1%)

〈有償の場合、当該サービスの提供によって追加で発生した費用の取り扱い〉

- ・基本的に当院と契約しているエージェントに全て依頼している。
- ・外部業者へ委託している。
- ・基本的に医療行為及び付随するもの以外の業務については指定の国際医療コーディネーターが外国人患者から費用を徴収し対応している。

当方から国際医療コーディネーターへは業務委託料として、外国人患者が支払う医療費相当額に一定の割合を乗じた額を支払っている。

- ・自院で徴収する、もしくは外部委託している。

(9) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外国人患者の受入れ状況は令和元年度（平成31年4月から令和2年3月）と比べてどのように変化したか。

令和2年度に受入れを実施した病院のうち **10 病院が「令和元年度よりも減った」と**回答した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって 令和元年度と比較した令和2年度の受入状況がどのよう に変化したか	回答数 (n=14)
令和元年度よりも減った	10(71.4%)
令和元年度よりも増えた	2(14.2%)
令和元年度と同程度	2(14.2%)

(10) 新型コロナウイルス感染症が今後収束した後の外国人患者の受入れについて

令和2年度に受入れを実施した病院及び実施予定と回答した病院のうち、**7 病院が「以前までと同様に受入れを実施する」と**回答した。

新型コロナウイルス感染症が今後収束した後の外国人患者 の受入れについて	回答数 (n=15)
これまで以上に受入れを拡大していく	4(26.6%)
以前までと同様に受入れを実施する	7(46.6%)
以前より受入れを縮小していく	2(13.3%)
今後は受入れを実施しない	0(0.0%)
検討中（今後の状況を見て受入れの方向性を検討）	2(13.3%)

※令和2年度に受入れを実施した病院のうち2病院は「調査票2」の提出無し

(11) 海外在住の外国人患者の受入れを断った経験

回答のあった112病院のうち17病院が海外在住の外国人患者の受入れを「断った経験がある」と回答した。

断った理由としては、「言語対応ができなかったため」、「診察できない内容だったため」が多くなっている。

	あり	なし
海外在住の外国人患者の受入れを断った経験 (n=112)	17(15.1%)	84(75.0%)

<断った理由>

- ・ 診療専門外の方は、お断りする場合がある
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の為
- ・ 医療費、言葉の問題
- ・ 疾患の進行が著しいもしくは、疾患の種類により陽子線治療の適応外と判断された。
- ・ 英語が通じなかった。
- ・ 受け入れ体制が整っていないため
- ・ 通訳等不在で対応困難
- ・ 体制が整っていない
- ・ 新型コロナ感染症拡大のため
- ・ 希望する治療に適用でなかった。
- ・ 当院の病院機能に合っていなかったため（慢性期の病状の受入れであった）
- ・ 言葉を理解できる者が院内にいなかったため
- ・ 当院で対応出来ない症例であった
- ・ 精神科のため、言葉が通じないと診療に差し支えるため
- ・ 専門の紹介会社の紹介患者のみ対応している
- ・ 希望される治療を行えない
- ・ 今以上の治療は難しく手の施しようがない
- ・ 未収金の問題

(12) 県に実施を望む施策

県に実施を望む施策としては、**46 病院が「受入環境整備のためのガイドラインの策定」、35 病院が「現場職員を対象としたセミナー」と回答した。**

県に実施を望む施策	回答数 (n=127)
海外の展覧会へ県内医療機関とともに出展してPR	7(5.5%)
外国人観光客等にPRするためのパンフレットの作成	8(6.2%)
受入環境整備のためのガイドラインの策定	46(36.2%)
医療機関の院長等を対象としたセミナー	19(14.9%)
現場職員を対象とした研修	35(27.5%)
その他	12(9.4%)

〈その他の具体例〉

- ・ 数か国語を話せる人が付き添いでいてくれると受付から診療までスムーズにいくと思う。
- ・ 受け入れ可能な病院に受診を促す政策や案内
- ・ 行政側の意向をわかりやすく周知してほしい
- ・ 通訳の派遣
- ・ 通訳器機などの援助
- ・ 外国人患者等の受け入れ環境を整備するための助成金の交付
- ・ 観光コンベンション局とのコラボレーションによる医療×観光をしてPRする活動
- ・ 海外在住の外国人患者への医療機関受診にあたっての説明
(各病院のルールを守っていただくことや医療費の支払いに関すること等)
- ・ 外国在住の外国人患者受け入れに伴う、様々な規制の緩和
- ・ 未収金になる場合の補償制度
- ・ 各医療機関へ派遣いただけるだけの、相当数の医療通訳者の確保
- ・ 通訳体制、料金対応を含めた民間企業の介入

(13) 外国人患者の受入れのため、海外へ情報発信したい技術・機器又はサービス等【自由記載】

- ・ 不育症の診断治療、着床前診断
- ・ PET-CT、320 列 CT、3 テスラ MRI、マンモグラフィ検査、放射線治療、ロボット支援手術（ダヴィンチ）、コンシエルジュ（院内での治療・検査室への案内係）の配置等、最新の医療機器と患者サービスの提供。
- ・ 集束超音波治療（FUS） 膠芽腫（交流電場腫瘍治療）循環器疾患診断・治療 整形外科領域 脳神経領域 認知症診断 PET 健診
ターゲットは、中国及び東南アジア圏
- ・ MR I、CT の撮影、読影
ターゲットは中国、ベトナム
- ・ がんの治療においては外科治療、放射線治療、内視鏡治療、化学療法が主な治療法として行われていますが、それぞれメリット、デメリットがあります。がん診療に関わる医師、看護師、薬剤師らが、臓器の特異性を越えた横断的診療の一環として、「キャンサーボード」というミーティングを定期的に開催し、患者さんの状態にマッチした診療計画を提供できるような体制をとっております。
- ・ 2009 年に日本で初めて da Vinci S Surgical System (Intuitive Surgical, Inc.) を導入いたしました。現在では、最新型の da Vinci Xi を含む合計 3 台が常時稼働しており、消化器外科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器外科の領域で、全国でも有数の手術成績を誇っております。さらにサージカルトレーニングセンターや先端外科治療開発共同研究講座を学園内に設置し、安全な先端外科治療を普及するための手術トレーニングや日本初の実用型内視鏡下手術用ロボットの開発を行っています。”
- ・ 放射線治療、ロボット手術、再生医療
ターゲットは中国

(14) 海外在住の外国人患者の受入れ全般についての意見・要望等【自由記載】

〈課題・要望〉

- ・医療費、言葉の問題、術後フォロー等、受入れには課題が多いと思います。
- ・紹介状が英語か日本語でもらえる、日本に滞在できるビザがある、日本語が分からない場合に通訳がいる等の条件が揃っていると受け入れしやすいと考えます。
- ・国内在住で保険証をお持ちの方なら簡単な診察な内服治療を行うことは可能だが実費診療の方に対しては信頼性がない為、受け入れに対しての考えがない。
- ・患者や家族と職員のコミュニケーションの問題に大きな不安があり、当院での受け入れは難しいと考えています。今後も受け入れることは困難である。
- ・自治体は外国人が日本で医療提供を受けたいと思う技術等開発に対して支援すべきである。
- ・健診センターで中国からの受け入れを検討したが、専用スタッフの問題や大きな声で話される等の理由から受け入れを断念した。日本人と同じスペースで受け入れをすることは困難ではないかの意見もあった。
- ・当院では外国人患者様を受け入れる水準に達しないため、当面は受け入れることが出来ません。
- ・外国人の患者情報を円滑にやり取りするための医療情報システムの構築が必要。医療期間が単独で、個別に行うには負担が大きい。
- ・当施設のみでは対応できる疾患に限界があるため、県立がんセンターなど公的医療機関においても積極的に外国人患者を受け入れるようにしていただきたい。
- ・言葉が通じない患者には通訳の方が付き添う様な施策が必要だと思います。
- ・保険等支払いの点で問題がないのが条件です。”

〈その他〉

・当院の場合、受け入れ拒否をしていないだけで、たまたま観光できてみえる外国人の方や、ホームステイをされている方ぐらいしか受診されませんので、意見等はありません。外国人患者を受け入れてますという宣伝をされると困る程度です。

・現在、海外在住の外国人患者の受診があった際には出来る限りの対応を行っています。今後も同様の対応になると思われます。

・コーディネーター等より依頼があった場合のみ受け入れを検討。

・コロナ禍の現状では海外からの受け入れは感染リスクが高いため当面の間受け入れる予定はない。